



工
事
情
報

右岸天端まで残りわずか！
コンクリート打設 進捗率約76% 打設量約48,000m³



ダム完成後の標高

ダム上流から (流向→)



右岸展望台から (流向→)

和食ダムも無事に2017年を迎えることが出来ました。今後も安全第一で施工を進めていきますのでよろしくお願いします。

現在の打設量は約4.8万m³、進捗率約76%(平成29年1月25日時点)になっています。

打設したコンクリートは硬化する際に発熱する一方、冬場のコンクリート表面は雨や風にさらされて温度が低くなります。この温度差がコンクリートの品質を確保するうえで障害となるため、12月初旬からコンクリートの表面を保温し、内部と外部の温度差を少しでもなくすように保温マットとブルーシートを設置し、保温養生を開始しました。

私たちが冬寒くなってくると着込みますので、なんだか似ているような気がしますね。

保温養生施工の流れ

①



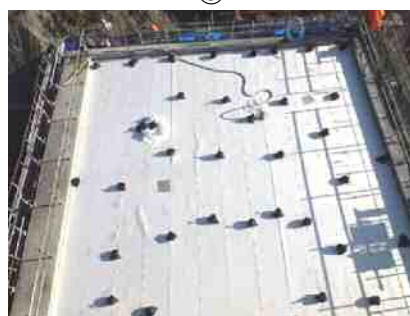
元の状態

②



保温マット敷設状況

③



保温マット敷設完了①

⑥



ブルーシート敷設完了②(左岸から)

⑤



ブルーシート敷設完了①

④



保温マット敷設完了②

高知労働局建設現場パトロール

In和食ダム

開式



室内での開式の様子

「シルバー安全パトロール隊」結成式



パトロール実施状況



右岸展望台より



堤体上部より

平成28年12月19日に高知労働局建設現場パトロールが実施されました。実施にあたり、地元関係者の方々による「シルバー安全パトロール隊」を結成し、高知労働局、建防災高知県支部、高知県安芸土木事務所、和食ダム建設事務所、本体工事施工業者と共にパトロールを実施しました。当日は天気にも恵まれ、右岸展望台や堤体上部から現場の安全対策についてパトロールを行っていただき、その内容は新聞やテレビのニュースといったメディアでも取り上げていただきました。現場パトロール後に、「シルバー安全パトロール隊」の代表者の方からは、「安全帯を初めてつけてみて、作業するのは大変だということがわかりました。ご苦労に感謝します。」とねぎらいのお言葉をいただきました。

和食ダム建設現場では、工事着手以来、現在に至るまで無災害です。完成まで継続できるよう、引き続き、安全第一で作業を進めていきます。

関係者の皆様ご協力ありがとうございました。

芸西村の史跡紹介【第8弾】

ひろいけ
「廣井家(大工の系譜)」

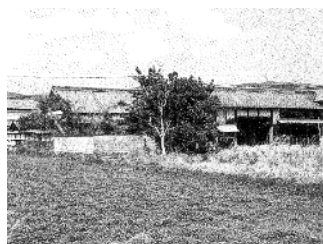
ひろいけ
《廣井家(大工の系譜)》

馬ノ上に代々続く大工の家系がありました。その家系の一人、廣井伊太郎は三十八歳のときに高知に出て、生来の覇気と研究熱心さで大規模洋風建築の技術を学び、請負業を始めました。彼が建築した代表的な建物として、高知県庁、営林署、公会堂、県立女学校、高野寺楼門、土陽・高知両新聞社、野村組諸建築物、女子師範学校、四十四連隊兵舎などがあります。地元の馬ノ上小学校や入交家長屋門も建築しました。

伊太郎は昭和六年に亡くなり、その墓碑は馬ノ上にあります。次回は「安岡氏と安岡金馬顕彰碑」です。



位置図



昭和60年ころの入交家写真
※芸西歴史散歩より引用



注意喚起(昇降時に荷物を持ったままにならないように)



スロープ通路(勾配をつけ、階段部を少なくしている)

本体工事施工業者
安全対策事例

おつかれさま
でした!



和食ダムを背景に記念撮影